

〒745-0034 周南市御幸通2丁目22  
防長本社 Eメール bocho@chugoku-np.co.jp  
中国新聞山口 Eメール chugoku@c-spice.co.jp  
情報サービス URL http://www.c-spice.co.jp  
☎0834(33)5605 FAX0834(33)5610

# ホッと通信

## 民さんたの やまぐち日記

13

僕は世界で一番おいしい料理を作る人はうちの祖母ちゃんだと信じています。これは絶対間違いありません。お母ちゃんが作ってくれたご飯も好きですが、お弁当もなかなかのものなんです。  
スリランカの家で一番早起きはお母ちゃんです。目覚ましがないので、鶏の鳴き声が

時計代わり。お母ちゃんは起きるなり、釜に火をつけて炊事に取り掛かります。そして朝ご飯がそろそろ出来上がるころ、包丁を持ってまだ暗かりの庭に出ていきます。  
戻ってきたお母ちゃんは、庭で切り取ったばかりの大きなバナナの葉っぱを手に入れています。そして鍋をのせているかまどの火をもらって、葉

# 愛情感じ 違いを楽しむ

## バナナの葉っぱのお弁当



イラスト・石井彩子

つばの裏側をあぶるのです。ときには、教科書の入った鞆葉っぱがちぎれにくくなるたど、お母ちゃんの愛情たっぷりバナナの葉っぱのお弁当が何となく、このバナナの胸元にしつかりと。スリランカは常夏といわれるけど、その葉っぱがスリランカではお弁当箱に変身します。葉っぱの上には熱々のご飯と汗気の少ないおかず(カリ)をのせ、それを新聞紙で丁寧に包んで出来上がります。  
朝は本当につらい。まだまだだ眠たいのに学校に遅刻するからと親に起こされ、急いで顔を洗い、服を着替えて朝食をつれ、バナナの葉っぱに蒸せをとります。家を見送られるたご飯がなんともいえない香りを放ちま

す。教室全体に充満するそのあまりにもおいしい香りは、我が子の遠足にお弁当をに我慢できず、ついつい先生に隠れてコンビニかなんか立ち寄り弁当に手を出してしまつて怒られることよくあります。規格外のお弁当は、無事残つて

を持ちより、二、三台の机をくつつけてみんなで囲みま

快晴におしどり達もお出かけと数少ない管理人は言う。中井富佐子 残雪の牧野峠を越ゆと見し涅槃のごとき山の連なり 是国 和子 芳春院に初釜のお茶飲み干すに器の底に福の字現る 中岡 文字 五十余基の歌碑の成りたり秋分に葉を奏して除幕式成る 松重マツ枝 初めての振り袖まといポース取るばあはとママとの自慢のあなた 稲田 文字 土日にも爆音響くわが町の梅のつぼみに日差しやわらか 西村カズコ 窓の外舞い散る雪の絶え間なく山の稜線空に溶けこむ 小林 郁枝 この道を通つ直ぐ右へと答えたり宇野千代邸の道に住むわれ 梶村 幸子 旅立ちし友偲びつつ早春賦流るる夕べを部屋にこもりぬ 中村 澄子 雨の中短く鳴ける山鳩の声聞きながら裏道歩む 西村 恵子 逆さまに黄ばら紅ばら吊されてゆれて唄うよ月の砂漠を 叶井 幸子 窓に添ふ棕櫚竹の葉の折々に揺るるを眺むるとき 座して 隅 一 ふるさとのセピア色頭つ 蛙焼きの煙たなびく夕暮れときは 金光紀代子 刻々と時きさみつつ昇り来るスバルは遙かわれの頭上に 見田 安夫 雪積みて天窓の明かられ厨はひすがら薄まま休む 岩本 一 つ聞き一つ忘れても暮れぬ明日は如何思いつつ休む 浜田 しみもりて雪の残れ 映に湧水汲まむと列 川本久 風強く髪を乱れをへンにおさえて夕餉の物に急ぐ 小松セ 山遠く昇る初日の輝 幸を祈りぬうからと 温品八 初春の寺の境内にしろと樹水美し朝日の 磯村 〆 俳句 〆 ◆春嶺俳句会 (岩田) 驚の衣白を極めて初 蛸壺をうす高く積 来問 藤井 兄弟といへど正座の かな 末岡 夜廻りの一打一打 かる 佐々木 和紙 石井 しまく中髪をなび 斎藤 マフラーに顔ふか 地蔵尊 松村 七草を摘む夕映に 和泉 初釜やつまみ細工 岡本 桜の花の香に流